

資料 1

令和元年度公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果（案）

I 評価の方法

委員会による評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

なお、項目別評価は、業務実績報告書の様式に示す項目ごとに、その状況を次の５段階で評定することにより行う。

評定	評 定 項 目	判 断 の 目 安
S	特筆すべき進捗状況にある	委員会が特に認める場合
A	年度計画を順調に実施している	自己評価の評定がすべて「Ⅳ」又は「Ⅲ」
B	年度計画をおおむね順調に実施している	自己評価の評定で「Ⅳ」又は「Ⅲ」がおおむね９０％以上
C	年度計画の実施にやや遅れがある	自己評価の評定で「Ⅳ」又は「Ⅲ」がおおむね９０％未満
D	年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある	委員会が特に認める場合

II 項目別評価

(１) 評定の状況

項目	S 特筆すべき 進捗状況に ある	A 年度計画を 順調に実施 している	B 年度計画を おおむね順 調に実施し ている	C 年度計画の 実施にやや 遅れがある	D 年度計画の実 施が遅れてお り、重大な改善 事項がある	計	当委員 会の評 価項目
第１ 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置							
１ 教育に関する目標を達成するための措置							1～11
0	10	0	1	0	11		
２ 研究に関する目標を達成するための措置							12～17
0	6	0	0	0	6		
第２ 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置							18～22
0	4	0	1	0	5		
第３ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置							23～28
0	5	0	1	0	6		
第４ 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置							29～31
0	3	0	0	0	3		
第５ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置							32～33
0	2	0	0	0	2		
第６ その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置							34～36
0	3	0	0	0	3		
全体	0	33	0	3	0	36	

(2) 項目別評価の具体的な内容について

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1 イ 学士課程（法人自己評価項目No.1～6）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 外国人留学生についての項目（No.5～6）がなくなったので前年度までと評定の比較ができないが、実態としてはこれでよいと思う。（伊勢委員）
- ・ 学務に関する新しい統合システムの構築を急ぎ、入学者選抜も含めた教学マネジメントを強化することが望まれる。（齋藤委員）

2 ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.7～11）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。（C：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり達成している」が90%未満であり、当委員会としては、年度計画の達成がやや不十分であると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 志願者が昨年度から6名増えたことは、法人の努力の賜物である。社会人特別選抜内の「地方自治体派遣枠」を増やし、地域貢献に関する目標と連動させることを期待する。（伊藤委員）
- ・ 看護学研究科の博士前期課程のみが定員を満たしている。他の研究科の定員を看護に移動させてはどうか。（吉沢委員）
- ・ 定員充足をめざし、中長期的視点からの戦略形成が望まれる。（齋藤委員）

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3 イ 学士課程（法人自己評価項目No.12～24）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ ディプロマ・ポリシーで掲げた教育目標を教育課程の各授業科目の中でどう達成するのか、その達成度をどう測るのかという基本問題について、不断の検討・検証が望まれる。（齋藤委員）
- ・ 「地域フィールドワーク」を開講し、地域課題とその解決に関心を持つ学生の割合を80%に引き上げたことを評価する。（伊藤委員）
- ・ 学生にとって学修状況可視化システム（a l a g i n）は、モチベーションを上げるツールとなり得る。（伊藤委員）
- ・ 食産業学群（学部）の機材、機械の老朽化は事実であり、改善を早期に望む。（伊藤委員）

4 ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.25～34）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 自治体職員を大学院へ誘導することに価値がある。自治体職員は、首長が掲げる理念を方針、方策に落とし込む審議会に時間を取れないのが現状であり、大学院は、中長期計画策定に向けしっかり作り込みをさせる余裕と理論を供与できる絶好の機会である。（伊藤委員）
- ・ 行政職員の社会人入学はとてもいい試みで、この人数をさらに増加させることを考えてはどうか。看護学研究科においても、積極的に保健師職能の社会人学生を受け入れてはどうか。（吉沢委員）

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

5 イ 適正な教員配置（法人自己評価項目No.35～38）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

6 ロ 教育及び教員の質の向上（法人自己評価項目No.39～42）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 新授業評価システム（n i g a l a）の導入は教員、学生共に相乗効果がある。（伊藤委員）
- ・ 授業評価アンケートの回収率が向上したことを評価する。今後、質問項目の戦略的見直し、結果の適切な分析を通じて、アンケートが教員の授業改善・資質向上に還元できるものとなることが望まれる。（齋藤委員）

7 ハ 教育環境の整備（法人自己評価項目No.43～45）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（S：1人，A：5人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 太白キャンパスでのコモنزの整備，開始が進んでいることから，昨年度と同じS評価でよいのではないかと。（伊勢委員）
- ・ 学生の学修活動を促進する装置としての各コモنزが，期待通りに機能していることを評価する。（齋藤委員）

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

8 イ 学修支援（法人自己評価項目No.46～49）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 休学率、退学率の他大学の指標が分からないが、目標値に達していることを評価する。（伊藤委員）

9 ロ 生活支援（法人自己評価項目No.50～52）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 授業の出欠チェックの徹底を通じて、支援を必要とする学生の早期発見の仕組みが整えられたことを評価する。（齋藤委員）
- ・ L G B T Q + に属する学生への支援について、ミクロFDができたことを評価する。この取り組みを広げていくことを期待する。（吉沢委員）

10 ハ 就職支援（法人自己評価項目No.53～57）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ S評価でもよいと思うが、法人自己評価を尊重する。来季の学生の就職状況が厳しいと思うので、さらなる指導をお願いしたい。（伊藤委員）

11 ニ 社会人・留学生への支援（法人自己評価項目No.58～59）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

12 イ 研究の方向性（法人自己評価項目No.60～63）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ コロナ禍の時代に入っでの研究の方向性も考慮されたい。（伊藤委員）

13 ロ 研究水準の向上（法人自己評価項目No.64～65）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

14 ハ 研究成果の地域社会への還元（法人自己評価項目No.66～68）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 産学官連携で、さらなる地域貢献を期待する。（伊藤委員）

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

15 イ 研究の実施体制（法人自己評価項目No.69～71）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

16 **ロ 研究費の配分（法人自己評価項目No.72～76）**

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。 （A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

17 **ハ 研究者の配置（法人自己評価項目No.77）**

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。 （A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

18 **(1) 地域社会への貢献（法人自己評価項目No.78～83）**

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。 （A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 「地域フィールドワーク」「コミュニティ・プランナープログラム」等は地域と大学のどちらにとっても良いことなので、さらに進化させることを期待する。

（伊藤委員）

19 **(2) 産学官の連携（法人自己評価項目No.84～86）**

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。 （A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 地方自治体職員が、「地方自治体派遣枠」により大学院に入学するインセンティブを高め、入学者を増やすことを期待する。 （伊藤委員）

20

(3) 大学間及び高等学校との連携（法人自己評価項目No.87～89）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（S：1人，A：5人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 令和元年度の目玉的取り組みとして，「コミュニティ・プランナープログラム」が成果を出していると考え，S評価としてもよいのではないかと。（吉沢委員）
- ・ 高大連携推進室の設置により，高大連携を組織的に展開できる体制を整えたことを評価する。（齋藤委員）

21

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.90～96）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。（B：3人，C：3人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり達成している」が90%未満であり，当委員会としては，年度計画の達成がやや不十分であると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学として外国人留学生の獲得に向けた努力は重ねており，30%というきわめて高い比率目標が達成できなかったことをもって，C評価とする必要はない。（伊勢委員，齋藤委員）
- ・ たくさんの交流の場を作る試みは評価できるが，外国人留学生の通常の授業では，どこまで英語等での対応を準備しているのか。（吉沢委員）
- ・ コロナ禍で，今後は達成がますます厳しくなると思うが，重要な目標であると考え。（伊藤委員）

22

3 東日本大震災からの復旧・復興支援に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.97～100）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり，当委員会としては，年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

23 (1) 理事長を中心とする運営体制の構築（法人自己評価項目No.101～105）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

24 (2) 戦略的な予算等の配分（法人自己評価項目No.106）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

25 (3) 学外の有識者等の登用（法人自己評価項目No.107～108）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

26 2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 （法人自己評価項目No.109）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

27

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目№110～112)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。(A : 6 人)

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

28

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目№113～114)

【評定】 C 年度計画の実施にやや遅れがある。(C : 6 人)

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って達成している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり達成している」が 90%未満であり、当委員会としては、年度計画の達成がやや不十分であると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 各業務を統合するためシステム構築作業を実施したものの、運用開始に至らなかったという今回の経験を踏まえ、早急な再構築が望まれる。(齋藤委員)
- ・ インターネットバンキングや総務系の管理ソフトはレベルによっていくらかもあると思うが、採用されていなかったとは意外だった。(伊藤委員)

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

29

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目№115～119)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。(A : 6 人)

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 目標値の見直しにより前年度と評価が変わっているが、獲得額は前年度から増加しており、納得のいく数字と考えてよいのではないかと。平成25年度の実績額と令和元年度の目標額が同額なのが、少々気になる。(伊勢委員)
- ・ 外部U R Aの積極的な導入は素晴らしく、その成果が出ていると評価する。(吉沢委員)
- ・ 大学は固定費が大きいと思われるので、外部からの受託研究費を上げる事に注力せざるを得ない。(伊藤委員)

30 2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.120～123）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

**31 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置
（法人自己評価項目No.124～125）**

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとすべき措置

**32 1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置
（法人自己評価項目No.126～129）**

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

**33 2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置
（法人自己評価項目No.130～132）**

【評定】A 年度計画を順調に実施している。（A：6人）

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

34 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.133～136)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。(A：6人)

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ デザイン研究棟の運用に期待する。(伊藤委員)

35 2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.137～140)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。(A：6人)

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

36 3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.141～142)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。(A：6人)

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価する。

【法人の自己評価における特記事項に関する意見等】

（教育について）

- ・ 諸々の環境整備が完了しつつあるので、今後はその効果について可視化される必要性があると感じる。（伊勢委員）

（研究について）

- ・ 素晴らしい取り組みを行っている。マスコミなどを使った広報がもっと行われると、地域密着の研究成果をより広く発信できるのではないかと考える。（吉沢委員）

（地域貢献等について）

- ・ グローバル化の中で、海外との大学間協定を結ぶための努力は素晴らしく、成果となっている。この交流から得られるものは何かを考える。研究交流なのか、学部、大学院留学生を増やすためなのか、どこを目標にしているのか。（吉沢委員）

（業務運営及び財務内容、その他について）

- ・ 大学院を目指す外国人留学生には、教員個々人の英語の情報も必要である。（吉沢委員）

Ⅲ 全体評価

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

- 学生が主体的に学ぶ力を養成する教育内容，教育環境の整備が格段に進んだことを高く評価する。（齋藤委員）
- 学部教育に関しての取組みは全てにおいて素晴らしく，全キャンパスで同じように行われることが，より教育の質を高めることにつながる。（吉沢委員）

2 研究に関する目標を達成するための措置

- 研究への取組みは素晴らしい。外部URAによる他の大学との比較分析で，さらに質の高い研究への取組みが期待できると考えられる。（吉沢委員）

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

- 地方自治体職員を大学院へ誘導し，同時にその出身母体から振興計画策定の仕事を獲得できれば，地域貢献につながり，まさに一石二鳥である。
その実現のためには，県が指導的な立場で大学と市町村をつなぐ役割を果たすことが重要である。（伊藤委員）

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- 年度計画を順調に実施していると評価する。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

- 外部資金獲得のためのURAの導入を，高く評価する。（吉沢委員）

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

- 今後は，大学として定期的にチェックする一定数の項目を各目標領域別に決め，その結果を公表することにより目標達成状況を可視化するという方法を検討されたい。（齋藤委員）

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

- 年度計画を順調に実施していると評価する。

まとめ

法人による自己評価においては，法人自己評価133項目中4項目において「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」，126項目において「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」，3項目について「Ⅱ 年度計画を十分に実施していない」とされている。

当委員会としては、法人の令和元年度業務の実績について、項目別評価の結果も踏まえ審議した結果、全体としては年度計画を順調に実施しているものと評価する。

令和元年度は、第2期中期目標期間6年間の5年目であるとともに、平成29年4月にスタートした学群・学類制への移行を柱とする大学改革の3年目である。新授業評価システムやコモンズなど、ソフトとハードの双方において、学生の主体的な学びにつながる教育実施体制の整備が進んだ点を評価する。

一方、大学院の定員充足等、第2期中期計画期間中、継続的に課題となっている事項については、第3期中期計画において、適切な検討がなされることが望まれる。

今後、教育、研究及び地域貢献の各領域における成果がより可視化され、宮城大学が地域と共に歩む公立大学としての認知を一層高めていくことを期待する。